

地域発展を担う人材育成と成長戦略

2025年12月11日(木)
10:40～12:10



開 倫 塾 塾 長
開 倫 塾 日 本 語 学 校 理 事 長
林 明 夫

Q 1 : <この授業の到達点・目標・ゴール>は何ですか

A : 郷土を知り、郷土を愛し、郷土で活躍するための地域政策の実践的な知識の修得

Q 2 : この授業の<テーマ>は何ですか

A : 「地域発展を担う人材育成と成長戦略」です

Q 3 : 栃木県の地域発展を担う人材育成と成長戦略を考える上で参考になる事例は何ですか。3つお話ください

A : (1)第1は、「日本最古の学校」といわれる「足利学校」です。

①足利学校の創建については、奈良時代の国学の遺制説、平安時代の小野篁説、鎌倉時代の足利義兼説などがありますが、歴史が明らかになるのは、室町時代の永享11年(1439)関東管領・上杉憲実(うえすぎのりざね)が、現在国宝に指定されている書籍を寄進し、鎌倉円覚寺から僧・快元(かいげん)を招いて初代の庠主(しょうしゅ=校長)とし、足利学校の経営にあたらせるなどして学校を再興してからです。

②足利学校は、応仁の乱以後、引き続く戦乱の中、学問の灯を絶やすことなくともし続け、学徒三千といわれるほどに隆盛し、天文18年(1549)にはイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルにより「日本国中最も大にして、最も有名な坂東の大学」と世界に紹介されました。

③江戸時代の末期には「坂東の大学」の役割を終え、明治5年に幕をおろしましたが、廃校直後から有志による保存運動が展開されるなど、郷土のシンボル、心のよりどころとして足利学校の精神は市民の中に連綿として生き続け、平成2年の復元完成へつながり、教育の原点、生涯学習の拠点として、新しい学びの心の灯をともしています。

<足利市HP>

(2)第2は農民聖者、「二宮尊徳(1787～1856)」です。
にのみやそんとく

○「二宮尊徳」代表的な考え方(教え)
○「積小為大(せきしよういだい)」
・小さなこと(もの)を積み上げ、大を為す
・コツコツとさまざまな努力を積み重ね志を成し遂げる

○内村鑑三著「代表的日本人」岩波文庫、岩波書店 1995年7月17日刊

①西郷隆盛—新日本の創設者
②上杉鷹山一封建領主
③二宮尊徳—農民聖者
④中江藤樹—村の先生
⑤日蓮上人—仏僧

<参考>

○内村鑑三著「後世の最大遺物・デンマルク国の話」

岩波文庫、岩波書店 2011年9月17日刊

①「お金」—奨学金
②「事業・仕事」
③「作品・著書」
④「教育(子どもたちや人々への教育)」
⑤「生き方」

(3) 第3は、「田中正造(1841～1913)」です。

Q：当時、足尾でどんな問題が起きていたのか

A：(1) 渡良瀬川下流の一帯は、昔から米のよくとれる、大変豊かな土地でした。

ところが、銅の生産が増えるとともに、この豊かな大地がむしばまれ始めました。

(2) 川の水がにごり、かえるや魚が白い腹を見せて浮かび上がりました。

水につかった足の指がはれあがったり、種をまいても作物の芽が出なかつたりという、不思議なできごとが続きました。

また、井戸水を飲めば必ず下痢をし、小さい子の死亡率も異常なほど増えていました。

(3) 川に何か毒でも流れているのか、足尾銅山の工場から流れ出る水が原因ではないかと、村人も心配するようになりました。

山の木々も工場から出る煙のせいか、春になっても芽が出ず枯れていったのです。

(4) 明治23年(1890年)8月、渡良瀬川一帯の村は、これまでにない大洪水にみまわれ、足尾銅山の鉛毒によるものと思われる被害が大きく広がりました。

Q：田中正造は、足尾鉛毒問題の解決のためにどんな努力をしたのか

A：(1) 国会で演説

被害状況を調査した田中正造(当時 51歳)は、あまりの被害のひどさに、鉛毒の解決のために、自分は一生をさざけようと決心しました。

そして、翌年、国会で、「政治は、すぐに銅の生産をやめるように命令すべきである。」と演説しました。

これは、我が国の公害問題を取り上げた最初の出来事でした。

しかし、政府は、富国強兵策など国の事情もあり、被害の原因が、鉛毒によるものかどうかわからないとして問題にしませんでした。

(2) 被害状況の調査を専門家に依頼

正造は農科大学(現在の東京大学農学部)の助教授に頼んで原因を調査してもらつたところ、「銅山から流れ出る水には、銅・鉄分・硫酸が非常にたくさん含まれている。それが原因で動植物に被害が出る。」という結果が出ました。

政府もその結果を受けて、ようやく鉛毒を起こさないために新しい機械を取り付けるよう命令しました。

ところが、その機械では、鉛毒をくい止めることはできませんでした。

その後も正造は、何度も国会で訴えましたが、鉛毒問題は一向に解決しませんでした。

(3) 明治天皇に直訴

農民が願い出ても、国会で訴えてもだめだと知った正造は、明治天皇への直訴しかないと、命がけの覚悟を決めて議員をやめました。

明治 34 年(1901 年)12 月、国会開会式の日、正造は黒の羽織、はかま姿の正装で被害の様子を書いた直訴状を高く差し上げながら、明治天皇の乗る馬車めがけてかけよりました。

正造は、すぐに警官に捕まってしまいました。

しかし、この事件がきっかけとなって世論が盛り上がり、とうとう、政府は鉱毒調査会を作ることになったのです。

この調査会が示した計画は、渡良瀬川・思川・巴波川の合流する地点の谷中村をつぶして遊水地を作り、洪水を防ぐというものでした。

しかし、これでは本当の解決にはならないため正造たちはこのやりかたに反対しました。

何回も国や県に訴えましたが、そのたび取り下げられ、明治 44 年(1914 年)には谷中村に遊水地がつくられました。

昭和 48 年(1973 年)、日本の公害問題の原点といわれる鉱毒問題を起こした足尾銅山が閉山となりました。

田中正造は、この問題を解決するために、73 歳で息をひきとるまで身をささげて運動を展開し、正義を貫き通したのです。

＜栃木県教育委員会「とちぎふるさと学習」HP＞

Q 4 : 仕事とは何ですか

A : (1) 「もの(製品)」や「サービス」を「お客様」に提供して、「お客様の問題を解決すること」「お客様のお役に立つ」ことです。

①すべての「もの(製品)」や「サービス」には、「お客様」がいます。

②「お客様のお役に立つ」とは、「お客様の問題を解決すること」です。

③同じようなお客様が世の中にはたくさんいますので、仕事とは、「もの(製品)やサービスをお客様に提供」して、「お客様の問題を解決」し、お客様や世の中のお役に立つことです。

(2) そこで大事なのは、提供する「もの」や「サービス」の「お客様」とは一体誰かということです。お客様の困っていることは何かということです。

(3) 「マーケティングの4P」と「各々のPの顧客に対する意味(4C)」とは

＜マーケティングの4P＞	＜顧客にとっての意味(4C)＞
①Product(製品・サービス)	…お客様の問題解決(Customer Solution)
②Price(価格)	…お客様のコスト・負担(Customer Cost)
③Place(場所・流通)	…お客様の利便性(Convenience)
④Promotion(販売促進・広報)	…お客様とのコミュニケーション(Communication)

(4) 仕事とは「チームプレイ」

①「チームプレイ」とは、その前提是「信頼関係」。「1人1人のメンバーが自分の役割を果たすこと」

②「リーダー」とは「仕事の責任者。カギを預かる人」

Q 5 : これからの中社会とはどのような社会ですか。そこで求められる能力とは何ですか

A : (1) 「知識基盤社会」 …… 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

(2) 「グローバル社会」 …… 「多様な集団で交流する能力」

○ 「関係は本質に先立つ」

○ 「エポケー(思考停止)の演習」

<例> 「あなたは・・・なんですね」(付加疑問文)

Q 「あなたの好きな食べ物は何ですか」

A 「私はカレーライスが好きです」

Q 「あなたはカレーライスが好きなのですね」

⋮



* 自分の思考を停止して、相手の発言をそのままいい、最後に「付加疑問文」で確認。

まずは、相手の考え、立場をそのまま受け入れ、少しづつ「関係」を構築する試み。

○ 「英語」「語学」は必要→内容がわかつたら「発音練習、暗唱、書き取り練習」で身につける

* 目指すは、「深い理解」「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」こと。

(3) 「課題山積社会」 …… 「自律的に活動する能力」

① 「ことばは力」「語彙数は力」

「辞書」を用いて、知らないことばを調べ、自分のものにする

→ 「辞書」で調べたことは「ノート」に書き写し「読む練習」「書く練習」をし、「正確に覚える」

② 「自分で考える力」「批判的思考能力」を身につけるために「新聞」を毎日、1ページ目から「なめるように読む」

③ 「思慮深さ」「自省心」「省察力」を身につけるために「本格的な読書」に励む。「古典」を読み、「著者との時空を超えた対話」を！



○ 「ノートを取りながら本を読む」

○ 「本は6回読む」

○ 「本は最後まで読む」

④ 大学生の間は「大学図書館」に毎日通う。社会に出たら「公共図書館」「書店」を毎週訪れ、「自分の居場所(サード・プレース)」にする

○ ファーストプレース(自宅)

○ セカンドプレース(学校・職場)

○ サードプレース(ほっとできる場所、自分の居場所)



Q 8 : 学生時代に身につけておいたほうがよいことは何ですか

A : (1) 小学校・中学校・高校・大学で学んだ知識…学校で学んだ内容は全教科すべて社会で役に立つ大切なことばかりです。

① しかし、時がたつと忘れてしまうことが多いのも事実

② ではどうしたらよいか

- ③高校・大学など学校で学んだ「教科書」「教材」「授業ノート」「辞書」「地図帳」「年表」などは、全部とっておくことが大事。そして折に触れ読み直すこと
- ④就職試験や資格試験、国家試験など試験が一番役に立つのが「学校の教科書」
- ⑤「仕事」「社会的活動」「日常生活」「よく生きる」上でも、各学校で学んだ教科書はすべて役に立ちます。役に立たないものは1つもありません。

(2) 「学び方を学ぶ(Learning to learn)」

「効果の上がる学習方法」とは何かを考え、挑戦

- 「学習の3段階理論」(学習を「理解」「定着」「応用」の3つ段階に分け、丁寧に行うこと)

- ①テキストの選び方…「入門書」→標準テキスト→参考書(用語集)
 - ②「予習の仕方」…「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨む」のが予習の目的
 - ③「復習の仕方」…一度学んだことをテキスト、授業ノートを中心にもう一度学び直す。
問題はもう一度すべて解き直す
 - ④「定着」…「定着のための3大練習」は「不可能を可能にする」
 - ・「音読練習・暗唱」(英語は発音練習)
 - ・「書き取り練習・暗写」
 - ・「計算・問題練習」
 - ⑤「応用」…・テストで「良い点数(100点満点)」「合格点」を取る
・社会で役に立てる
- * 「試験」の準備は早目、早目に行う
- ・「テキスト」「授業ノート」はスミからスミまで全部覚える
 - ・「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)ようにする」「深い理解」を目指す



(3) 5S(ごえす)…「S(エス)」で始まる5つのことば

- ①「整理」seiri …いらないものを処分する
 - ②「清掃」seisou …きれいに掃除する
 - ③「整頓」seiton …ものは同じ場所に置く
 - ④「清潔」seiketsu …①～③を継続
 - ⑤「躰」shitsuke …自分から進んで行う
- * 「足利5S学校」:「足利は、論語と5Sの街」
- ・「5Sインストラクター研修」



(5)別の意味の「躰」も大事

- ①「美しい立居振舞い」
 - ・「服装第一」
 - ・「After you(お先にどうぞ)」
- ②「美しい言葉遣い」
 - ・「敬語表現を含む言葉遣い」(です・ます)
- ③「元気なあいさつ」…あいさつはこちらからする



Q 9 : 最後に一言どうぞ

- A : (1) 「人生は青天井、一生青天井」
(2) 「一生勉強、一生青春」(相田みつを)
(3) 「歴史における個人の役割」(プレハーノフ)
(4) 「継続する志」(大江健三郎)
(5) 「離見の見(りけんのけん)」(世阿弥)
(6) 「励まし合う仲間つくり」
(7) 「目には遠いが心は近い」
(8) 「幸福の青い鳥は身近にいる」
(9) 「健康第一」



感謝

御清聴ありがとうございました。心から感謝いたします。

御質問・御意見・コメントなど自由に御発言ください。